

大樹という名の由来というほどの話しではないのですが、私にとってははじめての長男誕生で、生まれる前には病院で女の子といわれ、考えていたのは女の子の名前ばかりでした。でも男の子には“大”という字が付けたくて“大”という字を“だい”か“たい”で読ませたく、自分も子供を“たいちゃん”という、ヒビキで呼んでみたかったのもありました。



その年の「名前の本」に“大”という字がつく名前は“大樹”がありすぐに大樹に決めてしまいました。その後毎年“大樹”という名は、男の子の名前ベスト10に入っていて、けっこう人気のある名前なのに自分でもびっくりしたりしています。

おかげ様で現在息子は、6才で、明るく元気に保育所にかよっています。大樹と名づけた様に、保育所でも一番大きい程のびのびと育てていてくれます。息子を見ると“大樹”という名前にして本当によかったなと思っています。

後日談になるのですが、私は北海道の出身ではなく、岐阜からお嫁に来たため、道内に“大樹町”がある事を知らなかったのが、大樹という名前にとまどう事なく付けましたが、それがかえて良かったと私は今は思っています。

ちなみに“大”という字の好きな私は、2番目の息子にも、貴大(たかひろ)とつけ、これも下から読めば“たいき”になるのですヨ。(母)

わが家の長男「大樹」は、平成3年12月2日に生まれました。妊娠8ヶ月頃すでに「男の子」という事だったので名前を考えながら出産の日を指折り数えておりました。とにかく「健康でありたく、地面にしっかりと根をおろした、たくましい大樹のような人であれ」と願い、命名「大樹」と名づけました。只今、小学2年生で、毎日、外で元気に遊んでおりますが、これからも人との出会いを大切に心身の幹をどんどん大きくして行ってほしいです。(父)



7年前、初めての子を授かった時から、男の子だったら「大樹」と決めていました。大地を踏みしめ、空と地を守るように枝を広げる姿が思い浮かび、そして何より、心の大きな人間へと成長してほしいからです。



男の子だと思い込んでいたのですが、誕生したのは女の子。「大樹」が我が家の一員になるのには、もう4年待たなくてはなりません。

三人姉弟の真中になった大樹(ひろき)は、そろそろ3才になるところです。外遊びが大好きで、姉が幼稚園に行ってしまうとすぐに公園に出掛けたがります。ぶらんこがお気に入り、1時間でも乗っていられそうです。時には姉よりも良く食べ、小さな病気はするものの、まずまずは健康でいてくれます。

ですが、3才になる現在まで、一度もママと呼んだことがありません。友達と遊ばず、家族以外には笑顔を見せません。こだわりが強く、何でも決まった手順でないとかんしゃくを起こします。

自閉症かもしれないと言われてから数か月たちました。動物園の檻の中のトラのようにただうろうろと動きまわる姿を見て、胸が締めつけられる思いをしたことも何度もあります。一時は恥ずかしいとさえ思いました。

でも、この子だって一生懸命生きているのです。母親である私がこの子の大地になり、しっかりと根を枝を伸ばす手助けをしなくてははいけないのです。

姉の春菜、弟の克樹と共に、名前に負けない、素晴らしい人間になってくれると、今では心から信じています。(母)

## 北海道滝川市の大樹さん

特別住民番号409

もう、20年も前の事ですからはっきりと覚えておりませんが、我が子の誕生の感動や命名にいたるまでを少しずつ紐解いてまいりましょう。

お腹にいる頃、時々主人とドライブに出かけておりました。カーラジオから流れてくる言葉にくぎ付けになりました。それは、男性歌手が子供の名前のことを話していました。内容はほとんど忘れましたが、大きい樹木の樹と書いて大樹(タイキ)と付けたとのことでした。「なかなかいい感じだね」と二人は暗黙のうちに決めていたと思います。当然男の子が生まれるものと信じていたし、今思えば女の子の名前など考えてもいなかったのです。我が家は主人の名前にヒロが付くので「大をヒロと読んでヒロキはどう？」…決定。それから数ヶ月後、元気な男の子が誕生しました。とにかく待望の赤ちゃんでしたので感激の涙でいっぱい、幸せいっぱいでした。人間として大地にしっかり足をつけ、大きくまっすぐな頼られる人になってほしいと願いつつ「大樹(ヒロキ)」と命名しました。1歳位までは丸々と太って、まさにふさわしい名前だと豪語しておりました。しかし、時の流れは残酷です。名前負けしたようです。痩せ気味で引っ込み思案で…まずは健康で何よりというところ。不器用だけどやさしくてまっすぐなところは思いが通じたようです。が反面「今の世の中もう少しずるくてもいいよ」と疑心暗鬼にかかりながらも、この子はそこが良いところなんだとっております。来年は成人式を迎えようとしています。自分の人生しっかりと歩んでほしいと願っております。(母)



## 北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号410

今年の夏は、例年のない猛暑で、北海道のあの涼しい快適な夏は、一体どこに行ったのでしょうか。我が家の一人息子の「大樹(ひろき)」も、暑さの中、毎日部活動に頑張っております。昭和60年2月18日午後6時37分、無事生をうけこの世に現れました。長男ですが、姉二人がおり三人兄弟の一番下で、生まれた時から性格は、おっとりして、手のかからないおだやかな男の子でした。一時は、三人姉妹に、憧れて一番下も女の子が良いと思っていましたが、今では、男の子で、良かったとっております。さて、命名ですが、長男という事は、名に意識はしなかったのですが、その頃、NHKの「お母さんといっしょ」の歌のお兄さんが、札幌出身の「坂田おさむ」お兄さんで、うちも苗字が「坂田」なので、「おさむ」がいいかなと単純に思い、さてどんな字がいいか、ちょうど父親が中学校の理科の教師なので、「理」と書いて、「おさむ」が良いと思っていました。ところが、念のため字画を、本で調べたところ、なんと最悪だったので、あっさり「おさむ」はやめ、他の名前をさがす事にしました。それで、大きなどっしりとした大樹、地にしっかりと根をはって、人生をたくましく生き、枝には、鮮やかな緑豊かな葉をつけ、果実もたわわにつけ、そのような実りのある人生を、しっかりたくましく生きて欲しいという意味から、「大樹」と命名しました。字画もバッチリで、ただ読み方は、ちょっとひねって、「ひろき」としました。その息子も、今年の誕生日で12才となり、4月には、中学生となり、文句を言い々毎日中学校へ通学しております。性格は、相変わらず、おとなしく、何事にも消極的で、時々はがゆくなる事もありますが、これからの人生、「大樹」という名前につけた願い通りどっしりとたくましく生きて欲しいです。補足ですが、生まれた年の夏の旅行に大樹町へ行き、役場の「大樹」町の看板の前で、記念写真をとったのですが、なんとフィルムがきちんと入っておらず大失敗！今でも思い出しては、とても残念です。(父)



15年前の10月29日、約10日おくれで、大変、大きな男の子が生まれました。私は、かっこうの良い名前をいくつか考えておりましたが、4kg以上もあるゴロンとした子供をながめつつ、父親が急に「大きく生まれたから大樹にする」と言ってあっさりきまりました。その時、私は豊頃町に、18年間住んでおりましたので、「あっ十勝に大樹町ってあるよ」って言ったのを思い出しました。我子は相変わらず大きく中三年生の今182cm,75kgに育っております。(母)



我が家の特別住民、大樹は現在2才2ヶ月を過ぎ毎日いたずらばかりしている元気小僧です。手にした物はどこかへ隠し、「知らない！見えない！」目を離すと勝手に階段をのぼり一人で2階へ、ETCと子供としてはかなりのつわものです。また私の地元でいう「ごんぼほり」に超がつくほどであきれることも日常茶飯事です。



この様な息子ですが妻が大樹を出産するまでは大変な道のりでした。過去に2度、流産を経験し、半ばあきらめていた子供ですが3度目の妊娠がわかり病院へ、先生いわく「絶対安静」動いてもダメ、外出もダメとにかく寝ていることと言われ実家においてもらうこと3ヶ月程、その間救急外来へ行くこと数回最後はすぐ入院となり妻の入院生活が始まったのでした。入院中は24時間ぶっ通しの点滴を5ヶ月間、外出は勿論病棟から出られず本当に気がどうにかなってしまうのではなかったのかと思います。

私は産まれてきてくれるなら男でも女でも元気な子であればただそれだけで充分、どこの家庭の親も本当にそう思うのだろうなどと考え私自身にも少し親になる自覚が生まれてきた様でした。

妻がやっと退院してきて2週間目のこと破水したため救急外来へ、翌朝、元気な子供が生まれたと連絡をもらいました。ただしへその緒が短すぎて先生が妻のおなかののり押し出したとオマケつきで。

大樹が誕生するまで、家族は皆大変でした。その分これからもっと幸福になろう、そして我が息子には苦勞して手にした命、大地にしっかり根をはり大きな樹のごとく育て下さい。君の両親も君とともに成長して行くつもりです。(父)

実は、私の名前は「たいじゅ」と読みます。ちなみに父親の名前は、徳樹(とくじゅ)と言います。父はどうしても、息子の名前には「樹」という字をつけたいと思い、「大樹」と書いて、「ひろき」「たいき」「たいじゅ」、どれにするか迷ったそうです。結局「たいじゅ」と読ませよう、素晴らしい名前だ、と喜んだらしいのですが、当時、相撲取りで「大受(だいじゅ)」(たぶん、この字であっていると思うのですが)という人気力士がいて、多くの知人から、彼の四股名から肖ったのかといわれ、気分をひどく害したそうです。



さあ、私の名前にこめられた意味ですが、小さい頃は、「大樹」とは、大きい木、幹が太いだけじゃなく、枝葉が生い茂って、細かいところにも気持ちが行き届く、そういう意味がこめられているのよと、よく母から聞かされました。生来、ポーツとしていたので、「独活(うど)の大木」になることを恐れたのでしよう。

珍しい名前だったので、小さい頃は友達によくからかわれ、少なからず親を恨みました。しかし、小学校高学年から今日に至るまで、名前に関しては、私は誉められっぱなしです。「素晴らしい名前ですね」「ええ、名前だけはよく誉められます」が、今では自

己紹介時の私の決まり文句です。

以前、字画と運勢について本を読んでいたら、どうも「鈴木大樹」という総画数はあまり良くないらしいということを見出し、母親に尋ねました。

「おい、俺の名前をつけるときに、きちんと字画は確認したのか？」

「いや、『大樹』という名前、バーン、絶対的にいい！これで、決まりよ。」

こう言われ、妙に納得してしまいました。

先日、父親と呑んだときには、「俺は、資産も何もお前には残してやれんが、良い名前だけは残してやれた。それが嬉しい」と言っていました。

とまあ、「名前負けしないように生きよう」というのが物心ついたときからの、私のポリシーですが、道まだ半ばといったところです。今のところは、それなりに大地に太い根を張って、まっすぐ育っているのではないかと勝手な自己評価をしています。

大樹町のみなさん、実は、私は、中学校の地理の時間に「おおつ」と思い、その町名を知っていました。パンフレットも見ました。名前にふさわしい、素晴らしい町ですね。いつか是非訪れてみたいです。

## 北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号419

すばらしい企画、どうもありがとうございます。

うちの息子は、大樹(だいき)です。それも、大樹町から名前をつけて戴きました。10年前、主人も私も東京生まれの東京育ちです。同じ会社で、オートバイの趣味が縁で、結婚したようなものです。結婚前後、合わせてバイクでは、3回、車でも3回ほど、長期のバイク野宿ツーリングをしました。そして、子供が出来た時、北海道のように、雄大で、やさしく、心の広い子に…との思いで、二人で毎日、北海道の地図帳を広げ、あれこれ探した結果、大樹(だいき)と、名付けました。(たいきと読むとは知りませんでした。)



次男は、当麻(旭川の近く)長女は、和琴(屈斜路湖)と、名付けました。長女が6ヶ月の時、運命が…神様が私達の願いをかなえてくれたように、なんと、札幌へ転勤となりました。夢のようにうれしかったのを今でも覚えています。

札幌で生活して、5年目です。両親のことは気になりますが、まだまだ、東京で暮らす気になれません。主人も、脱サラをして、すすきのに居酒屋を出しました。

私事を、ズラズラ書いてしまいまして、すみません。

ほんとに、すばらしい企画だと思います。ありがとうございます。(母)

## 茨城県土浦市の大樹さん

特別住民番号429

昭和56年1月6日生まれ。私たち夫婦が男の子が生まれたら大樹、女の子だったら麻衣子と決めていたのは、出産のかなり前からであった。20年も前の話で、理由は今更思い出せないが、妻は、「当時お父さんが道路緑化関係の仕事をしていて、植物図鑑を見ていて大きな樹のようにすくすくと育てて欲しい。」からだと言う。私はうろ覚えながら、画数を考えてのことだと思っていて、「古閑」という字は二字とも角ばっているもので、「ノ」「●」のような曲線を含む文字がよいと考えていたらしい。そして、最後の文字は画数が多く、氏名全体が安定するようにと、「樹」の字を選んだと思っている。



大樹町との出会いは、旭川市に住む友人が「全国の大樹さん募集」の新聞切り抜きを送ってくれたことに始まる。だが、実は私たち夫婦は新婚旅行の際大樹町を通過していることに今、気づいた。昭和55年8月9日、前泊の釧路市から当日の宿泊地の襟裳町に行く途中で、大樹町を通過している。私たちも幸せを願い愛国駅から切符を買って列車に乗ってきた。この時、お腹の子は妊娠5ヶ月。従って、我が子大樹も生まれる前に大樹町を通ったことになる。

昭和56年、子供が生まれたのを記念して、仲人さんがスギとアスナロを贈って下さっ

た。スギはまっすぐに素直に育つように、アスナロは明日はヒノキになろうと努力することを願ってのことだそうだ。今このスギの木は、2階の屋根まで伸び、真に大樹となった。大樹町の話と言い、スギやヒノキの話と言い、子供達に語り継ぐ話がまた一つ増えた。(父)

---